

# ライフスタイルからみる二拠点居住の有意性と課題に関する研究

## A STUDY ON THE SIGNIFICANCE AND ISSUES OF THE TWO BASES RESIDENCE FROM THE VIEWPOINT OF LIFESTYLE

建築計画 坂田壮平  
Architectural planning Sohei SAKATA

ライフスタイルの多様化に伴い、普段の生活とは異なり、違う場所で定期的に生活を送る二拠点居住が誕生し、空き家対策や地域活性化が期待されている。本研究では二拠点居住の住まい方に焦点を当て、二拠点居住の有意性や課題について言及する。二拠点居住は普段家族と一緒に過ごす時間が短くなることや家事の分担など、家族関係を良好に築く場として利用され、複数の拠点を機能的に使い分けることで、一般的な生活以上の豊かさを獲得することが出来ていた。

With lifestyle diversified, two bases residence which live regularly different locations from the usual life location appears and it has been expected vacant house measures and regional revitalization. On this study, focusing on how to live two bases residence, referring to the significance and issues of two bases residence. Two bases residence are used as the place which builds family relationships much better, such as shorten time that every family usually spends together and sharing the housework, and it has been able to get more wealthy than the general life by functionally using multiple locations.

### 1. はじめに

#### 1-1. 研究背景・目的

現在、空き家問題は山間部で顕著に現れ、全国で空き家率は13.5%と過去最高となった。そうした空き家は建物の老朽化・崩壊を招いており、構造面・衛生面などの維持管理ができず、近隣住民は嫌悪感を抱いており、国や各自治体がそうした住宅ストックをどのように活用していくのが課題である。また山間部では、過疎化が顕著で少子高齢化が進行し、都市部と山間部の経済格差が拡大する中、若者をどのように転入させ、将来的な人口増加を叶えるのが問題である。

一方で生活様式は多様化の時代へ突入し、場所を選ばない仕事や単身赴任者の増加、高齢者増加による二世帯居住、若者のシェアハウスなど家族形態が変容し、様々なライフスタイルが誕生してきている。最中、そうしたライフスタイルの多様化に伴い、普段の生活とは異なり、違った場所で定期的に生活を送る二拠点居住が誕生した。

国土交通省は2030年には1080万人が志向する居住スタイルと予想しており、先の少子高齢化や地域活性化など社会問題の解決の一助となる期待を寄せられており、最近では、二拠点居住における市民権の獲得や国土交通省が地域復興を推進し、注目度が伺える。

そこで本研究では、その二拠点居住に着眼する。二拠点居住を行う人がどのような生活を送っているのかライフスタイルの視点から調査し、二拠点居住の優位点や、各拠点の機能の使い分けなどの実態を明らかに

することで、二拠点居住の有意性や課題、今後の居住スタイルの可能性について明らかにする。

#### 1-2. 研究の位置づけ

二拠点居住に関する研究は少なく、渡邊(2006)らは、複数の拠点が持つ特徴・効果から今後の住宅指標を得ることを目的とし、マルチハビテーションの居住要因を抽出し、都心部において複数の生活拠点は柔軟的であると共に、生活者の単位が家族から個人へとなり、自己と他者の関係が見直しされている事を論じている。一方で近江(1995)らは、ネットワーク居住の多様な成立形態とそこに成立する住空間の意味と役割の変化について解明し、各住宅の都市居住全体の中での役割の見直しと今後の都市居住の方向づけを論じた。

しかしながら、二拠点の居住地域が広範に及ぶ二拠点居住の実態について言及している研究がない状況である。本研究では、居住地域が広範に及ぶ二拠点居住の実態に着目し、より詳細な二拠点居住のライフスタイルの実態を考察し、有意性を明らかにすることで二拠点居住を普及させ、より多様化したライフスタイルの展開を試みるものである。

#### 1-3. 調査概要

調査概要を次頁に記す。調査は、二拠点居住を行う14事例を対象にヒアリング調査を行った。調査内容は、①住宅図面・間取り②世帯情報③費用や各住まいの位置づけなどのソフト面④ライフスタイル⑤二拠点居住を行ったことによる従来からの変化⑥今後の使い方である。

## 2. 二拠点居住の実態

調査を行った14事例の詳細を以下に示す(表1)。

(1)経緯・きっかけ：経緯・きっかけは主に3つ①家族のことを考えて二拠点居住を始める**家族型**②自分の趣味の場など自分のことを考えて二拠点居住を始める**自己的**③隣家の移動や単身赴任など二拠点居住を避けることができない**不可避型**に分けることができ、どの事例もきっかけや目的が寄与して二拠点居住が成立しており、特に山間部の事例では子供の教育などの**家族型**の経緯が多くみられることが分かる。

(2)目的：①子供の教育などの**子供型**②家事の軽減など効率的に行う**労働型**③自分の余暇のために二拠点目で生活を行う**余暇型**④実家に赴き両親と会う**面会型**の4つに分類することができた。

(3)住まい場所・立地：立地場所は主に①**都市部**②**郊外**③**山間部**に分類でき、一拠点目が**山間部**に位置する事例では、すぐに移動できる利便的な**郊外**に二拠点目を構える事例がみられた。逆に、一拠点目の**都市部**の住まいから二拠点目に普段味わえない自然体験が出来る**山間部**に構える事例がみられた。

(4)位置関係：(3)でも述べたが、二拠点居住を行う事例では利便性を重視して二拠点目を構える事例が多く、道路などのインフラが整ったことを理由に**山間部**と**郊外**や**都市部**とのアクセスが容易になり、車で1時間程度の場所に二拠点目を構える。また[F家]では、家族旅行の際は、普段住む上海から郊外まで車で5時間ほど要し費用も重なる為、かえって自然豊かで温泉などがある日本に行き、日本文化を堪能している。

表1. 調査事例一覧

事例	生活拠点場所	位置づけ	本拠点	比重	建物形態		価格		築年数	間取り	面積	移動手段 移動時間	経緯・きっかけ 型	目的 型	敷地選定理由
					持ち家	賃貸	購入価格	家賃							
A	1 大阪府大阪市平野区加美	都市部		33%	一軒家	-	不明	-	築40年	8DK	264㎡	徒歩	長女が第一子出産	実家で昼食	実家
	2 大阪府大阪市生野区巽南	都市部	●	67%	-	マンション	-	62,000円	築25年	2LDK	54.45㎡	15分	自己型	面会型	仕事場付近
B	1 大阪府大阪市東住吉区田辺	都市部	●	90%	一軒家	-	※150万	-	築50年	5DK	158.4㎡	自転車	両親の離婚	父と会う	自宅
	2 大阪府大阪市東住吉区今川	都市部		10%	-	マンション	-	79,000円	築4年	1LDK	45.92㎡	10分	家族型	面会型	騒音・駅近
C	1 大阪府大阪市平野区喜連東	都市部	●	50%	二世帯住宅	-	-	-	築60年	6DK	133.88㎡	徒歩	家が隣家	家事の軽減	実家
	2 大阪府大阪市平野区喜連東	都市部	●	50%	一軒家	-	4500万	-	築30年	3DK	101.65㎡	30秒	不可避型	労働型	自宅
D	1 奈良県吉野郡天川村大字洞川	山間部	●	93%	二世帯住宅	-	-	-	築50年	9DK	316㎡	車	子供の教育	子供の教育	実家
	2 奈良県橿原市永和町	郊外		7%	-	アパート	-	47,000円	築25年	3DK	105㎡	1時間	家族型	子供型	利便性
E	1 兵庫県姫路市辻井町	都市部	●	60%	一軒家	-	4000万	-	築9年	4LDK	200㎡	車・フェリー	子供の教育	子供の教育	土地所有
	2 兵庫県姫路市家島町	山間部		40%	一軒家	-	-	-	築15年	5LDK	200㎡	1時間30分	家族型	子供型	実家
F	1 中国上海市浦東新区	都市部	●	67%	マンション	-	※850万	-	築15年	2LDK	65㎡	飛行機	子供の故郷作り	子供の故郷作り	利便性
	2 奈良県橿原市今井町	郊外	●	33%	-	一軒家	-	75,000円	築400年	2DK	85.5㎡	6時間	家族型	子供型	文化・利便性
G	1 東京都目黒区自由が丘	都市部	●	72%	二世帯住宅	-	-	-	築27年	-	-	車	子供の教育	子供の教育	実家
	2 千葉県南房総市三芳村	山間部		28%	民家	-	-	-	-	8K	150㎡	1時間30分	家族型	子供型	自然豊かな場所
H	1 奈良県橿原市白檀町	郊外		35%	-	一軒家	-	60,000円	築20年	4LDK	132㎡	車	子供の教育	子供の教育	利便・親戚の家
	2 奈良県吉野郡天川村中谷	山間部	●	65%	二世帯住宅	-	※350万	-	築50年	9LDK	260㎡	40分	家族型	子供型	実家
I	1 大阪府大阪市平野区西脇	都市部	●	30%	マンション	-	1000万	-	築42年	3DK	51.3㎡	車	税金対策	孫の顔を見る	景色
	2 大阪府大阪市平野区平野西	都市部		30%	一軒家	-	4000万	-	築15年	6LDK	198㎡	1時間	自己型	労働型	土地所有
J	1 兵庫県加古川市加古川町	郊外	●	40%	一軒家	-	4500万	-	築5年	5LDK	230㎡				嫁ぎ先
	1 奈良県吉野郡大淀町土田	郊外	●	90%	一軒家	-	3500万	-	築22年	4LDK	124.5㎡	車	父親の他界	落ち着く場所	利便性
K	2 奈良県吉野郡天川村南日裏	山間部		5%	民家	-	-	-	江戸時代	3K	73㎡	40分	不可避型	余暇型	実家
	3 奈良県吉野郡天川村南日裏	山間部		5%	小屋	-	-	-	明治時代	5DK	151.2㎡				実家
L	1 奈良県香芝市磯壁	郊外		40%	二世帯住宅	-	3600万	-	築20年	9LDK	250㎡	車	割り切った関係	趣味の場	利便性
	2 奈良県吉野郡黒滝村脇川	山間部	●	60%	-	一軒家	-	25,000円	-	3DK	121.8㎡	1時間	家族型	余暇型	利便性
M	1 東京都文京区西片	都市部		33%	マンション	-	5000万	-	築10年	2LDK	60㎡	車	釣り	落ち着く	利便性
	2 群馬県多野郡上野村檜原	山間部	●	33%	一軒家	-	不明	-	築100年	7DK	230㎡	3時間	自己型	余暇型	自然
N	1 大阪府大阪市中央区森ノ宮中央	山間部	●	33%	一軒家	-	1億円	-	築20年	6LDK	550㎡	車	単身赴任	単身赴任	自宅
	2 愛知県長久手市五合池	郊外		67%	-	アパート	-	55,000円	築27年	2LDK	52㎡	2時間20分	不可避型	労働型	利便性
O	1 奈良県吉野郡天川村中谷	山間部	●	21%	-	村営住宅	-	11,000円	築30年	2DK	66㎡	飛行機	インドで出会ったBaul	感受性の向上	村営住宅
	2 奈良県吉野郡吉野町吉野山	山間部	●	27%	-	宿坊	-	0円	江戸時代	1R	33㎡	10時間	自己型	余暇型	宿坊
	3 インド西ベンガル	郊外	●	41%	-	アシュラム	-	0円	築7年	1R	20㎡				アシュラム

(注)※は当時の値段を表す

(5)所有形態：本研究では一拠点目を持ち家として所有する事例が多く、二拠点目には家族形態の変容などに柔軟に対応する為に生活の幅を持たせ賃貸として家を所有する事例が多くみられた。逆に、二拠点目を持ち家として所有する事例では、今後もその土地に居座る予定があることが伺えた。

(6)建物形態：主に**一軒家**と**マンション**に分かれる。郊外や山間部では、マンションよりも**アパート**に住む事例がみられた。また郊外のアパート群では、山間部からやってきた家族が住むことが多く、地域で全く関わりのない。逆に都市部に構える**一軒家**では、築年数が20年以上経つものも多く、これから建て替えや改修といった今後その家をどのように維持管理していくのが問題となる住まいが多くみられ、概ねの事例では、朽ちている場所(水回り)を改修したいと考えていた。

(7)間取り・住戸面積：家族形態の変容に伴い、家には空き部屋が目立つようになり、現在一緒に住む家族の広さに適した間取り・住戸面積を二拠点目に選ぶ際に重要視しているために、二拠点目の間取り・面積は一拠点目に比べると縮小しており、コンパクトなライフスタイルが展開されていることが伺える。

(8)費用(購入価格・家賃)：二重生活を極力抑える為に低価格な家を求めており、比較的安く家を借りることができる山間部や郊外に家を求め構えていた。また[H家]では、親戚が所有する空き家を借り、[K家]では、地域の空き家を値段交渉して低価格で借りる事例もみられ、そこまで家を借りる自体の費用に支障が出ている事例はなかった。

### 3. 二拠点居住の特性

#### 3-1. ライフスタイル

(1)住まい方 :①二つの拠点で全く異なるライフスタイルを展開する**分離型**②二つの拠点で行うライフスタイルが共通して重なっている**重複型**③二つの拠点で行うライフスタイルが方のライフスタイルに含まれる**内包型**④二つの拠点で行うライフスタイルが一致する**一致型**の4つに分類でき(表2)、[家事(調理・洗濯・掃除をさす)]二重生活で行う仕事を家族で分担[生活行為(家事以外の行為)]寝る・お風呂に入るなどの私的な場所と家族で団欒する・食事をとるなどの公的な場所としての使い分け[余暇]普段できない余暇を経験する場として、効率的に機能を使い分け、二拠点で生活機能を持つからこそ出来る、ライフスタイルの多様化が伺えた(表3)。

また、①普段生活しているところでは、できないことをもう一方の拠点で内緒で行う・隠すことができる**隠匿的役割**②普段生活している場所では経験できないことを行うことで、そのものの**価値を再認識する場**③自分以外の家族のために二拠点居住を始めたものの、その二拠点居住を契機に自ら普段の場と趣味の場として機能を分ける**付随的な役割**などの機能の使い分けもみられた(表4)。同じ生活(二重生活)を行っている**一致型**は二拠点を機能的に使い分けていなく、二拠点居住を行う利点を効率的に使えていないことがいえる。つまり、**分離型**や**重複型**のような、住まい方をいかにして機能的に分離して行うかによって豊かさは生まれてくる。

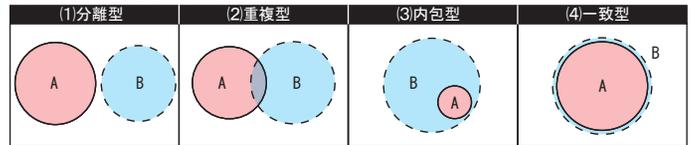
表3. 二拠点居住の特性

	(1)A家	(2)B家	(3)C家	(4)D家	(5)E家	(6)F家	(7)G家	(8)H家	(9)I家	(10)J家	(11)K家	(12)L家	(13)M家	(14)N家	
担い手	F1	f1, f2	M, F, m, f2	M	M, F	M, F, f	M, F, m1, f1, f2	M, F	GF	M	M	M	M	M	
動き	個人(通常)	特定(通常)	特定(通常)	個人(例外)	特定(例外)	家族全員	家族全員	特定(例外)	個人(例外)	個人(通常)	個人(例外)	個人(例外)	個人(例外)	個人(通常)	
家事	型	分離型	分離型	分離型	一致型	内包型	内包型	重複型	分離型	分離型	分離型	内包型	重複型	分離型	
	拠点A	調理/F1 洗濯/F1 掃除/F1	調理/F 洗濯/F 掃除/F	夕食/F 洗濯/F 掃除/GF	調理/F 洗濯/F 掃除/F	調理/F 洗濯/F 掃除/F	調理/F 洗濯/F 掃除/F	調理/F 洗濯/F 掃除/F	調理/F 洗濯/F 庭の剪定/M	- 洗濯/GF 掃除/GF	調理/F 洗濯/F 掃除/F	調理/F, M 洗濯/F, M 掃除/F, M	調理/F, M 洗濯/F, M 掃除/F, M	調理/F, M 洗濯/F, M 掃除/F, M	調理/F 洗濯/F 掃除/F
生活行為	型	分離型	重複型	分離型	重複型	内包型	内包型	一致型	重複型	重複型	分離型	重複型	重複型	内包型	分離型
	拠点A	寝る/F1 お風呂 夕食	寝る/F, f お風呂/F, f 夕食/F, f	寝る/GF, f1 お風呂/f1 勉強/f1	寝る/全員 団欒/全員 勉強・仕事	寝る/全員 お風呂/全員 勉強/CH	寝る/全員 お風呂/全員 -	寝る/全員 お風呂/全員 仕事	寝る/全員 お風呂/全員 勉強/CH	寝る/GF お風呂/GF -	寝る/全員 お風呂/全員 勉強/CH	寝る/全員 お風呂/全員 勉強/CH	寝る/F, M お風呂/F, M 仕事1/F, M	寝る/F, M お風呂/F, M 仕事2/F, M	寝る/F, M お風呂/F, M -
余暇	型	分離型	分離型	一致型	分離型	分離型	分離型	分離型	重複型	分離型	分離型	分離型	分離型	分離型	
	拠点A	ゲーム/全員 携帯/全員 テレビ/F1	趣味/f1 読書/F, f	テレビ/全員 -	趣味/M, f 来客 買い物/F, M	ゲーム/CH 携帯/全員 来客 買い物/全員	趣味 来客 買い物	読書 -	趣味 買い物/F, M	女子会/GF モーニング -	買い物/F, M -	趣味/F 買い物 -	趣味/M 来客 外食/F, M	外出/F, M 買い物/F, M -	趣味/F, M 歌う/F, M 読書/F, M
連絡	型	分離型	分離型	一致型	分離型	分離型	分離型	分離型	重複型	分離型	分離型	分離型	分離型	分離型	
	拠点A	ゲーム/全員 携帯/全員 テレビ/F1	趣味/f1 読書/F, f	テレビ/全員 -	趣味/M, f 来客 買い物/F, M	ゲーム/CH 携帯/全員 来客 買い物/全員	趣味 来客 買い物	読書 -	趣味 買い物/F, M	女子会/GF モーニング -	買い物/F, M -	趣味/F 買い物 -	趣味/M 来客 外食/F, M	外出/F, M 買い物/F, M -	趣味/F, M 歌う/F, M 読書/F, M
家族が会う頻度	毎日	毎週末	毎日	毎週末(不定期)	不定期	週ごと	毎日	毎週末	週ごと	毎日	毎週末	不定期	毎週末	10日(半年)	
地域との関わり	地域疎遠型 地域疎遠型	地域密接型 地域疎遠型	地域関与型 地域関与型	地域密接型 地域疎遠型	地域関与型	地域密接型 地域密接型	地域密接型 地域密接型	地域密接型 地域密接型	地域関与型 地域疎遠型	地域密接型 地域密接型	地域密接型 地域密接型	地域密接型 地域密接型	地域関与型 地域疎遠型	地域密接型 地域密接型	

(2)しつらえの変化 :①家に余っていた家具を再利用して、二拠点目に住む際に家具類にかかった費用を抑える**家具の再利用**②今後、この家を売り払うかもしれない可能性を残しつつ、この生活が終わった時のことを考えて、家具の購入を最低限に抑える**最低限の家具**③二拠点目に必要な家具を全て購入して揃える3つのしつらえの変化が伺えた(表5)。特に[I家]では、自宅の家具を海外製の特注家具を購入し、二拠点目には余っている家具を再利用し、[H家]では、本拠点ではダンスや本棚、食器棚という収納棚を購入し、しつらえているが、二拠点目では、家具を最小限に抑え、押入や納戸を有効活用しており、家具の使い分けにおけるライフスタイルの多様化がみられた(表5)。

つまり、今後のライフスタイルの変化に柔軟に対応

表2. 機能の使い分け型



(注)丸は各拠点の機能を表す

表4. 機能の使い分け(その他)

隠匿的役割	A タバコを吸っていることを親には内緒で自宅のベランダでタバコを吸う J 中学生の時に小屋にバイクを隠し持っていて、そこで改造などを行う
再認識する場	E 都会で生活することで田舎と都会の各々の生活のありがたみを実感できる F 地元食材を使った中華料理で地元食材の使い方を再発見できる
付随的役割	D 子供の教育を考えて山を降りるものの、自分の趣味の場として展開 G 子供の教育を考えて田舎暮らしを行うが、自分も農業など満足できる場を展開 H 子供の教育を考えて山を降りるものの、自分の趣味の場として展開
保管的役割	A 将来使うかもしれない保育の教科書を美家の一室に保管している I 普段使わないものは平野西の自宅へ置き、必要に応じて取り出して使う J 自宅で必要のないものを駐車場に持って行き、保管しておく K 自宅で必要のないものを倉庫に持って行き、保管しておく L 普段使う仕事に必要な本を東京の自宅へ置きそれ以外を上野村で保管する
異なる生活様式	B 椅子座で生活する父の家と床で生活を行う母の家
家財道具の移動	H 自分の思い出の写真やビデオを持っていく

し、押入などの備え付けの収納スペースを有効活用しながら無駄のない生活を送っていた。

これ以外にも unnecessary なものを一時的に本拠点以外の場所に保管する保管的役割や自分の思い出が入ったアルバムやビデオなどの家財道具の移動、床座と椅子座のような生活様式の変化がみられた(表4)。

(3)生活パターン：各拠点へ移動する担い手が家族の中で誰なのか①個人的に趣味の場などの機能を設けて定期的に二拠点を移動する②家族全員が定期的に二拠点を移動し、家族で週末暮らしを堪能する③特定の家族が定期的に二拠点を移動する3つに分類し、長期休暇など担い手が変化する時も含め、さらに5つに分類した(表3)。個々の担い手によって、家族と集まる時間は異なり、家族一人ひとりの生活パターンが異なることがわかった。特に、個人で二拠点居住を行う事例は自分の時間と家族で過ごす時間を機能的にわけており、逆に、家族で行き来する事例は二拠点で機能を一致させ、家族と過ごす時間を優先的に行っていた。

### 3-2. 二拠点居住における家族構成

(1)家族の過ごし方：各事例のヒアリング内容と二拠点居住における実態から明らかになった生活パターンを元に、家族の過ごし方を分析し、①ネットワーク技術の進歩によってLINEや電話、メールといった家族が連絡を取る手段が多様化し、FaceTimeのようなテレビ電話も普及し、家族が離れていても近くにいる感じがする②家族の会う頻度が少なくなると、家族内で絶えず連絡を取る③普段家族が集まる機会が少ない為に、家族が集まった時は、家族と一緒にご飯を食べ、団樂を行う意識を持っていることが明らかになった(表4)。それ以外にも、家族内で連絡を取る相手は夫婦間だけでなく、親と子供が毎日連絡を取るパターンもみられ、家族が離れ離れになりながらも、連絡を絶えず家族内で行うことで家族関係が保たれていた。

(2)意識：意識的な捉え方によって①二拠点居住を通して家族関係が変わった②会う頻度が少ない家族ほど個々の存在を心配するようになる③物理的な距離が遠いが、家族の心の距離は縮まる④夫婦間の喧嘩が少なくなった⑤子供が親想いになった、などの家族関係を再構築できることが明らかになった(表6)。

つまり、二拠点居住という要因を通して、家族が会う機会が少なくなり、物理的な問題を家族内で連絡を絶えず行い、家族が集まった時に行動を共にする工夫がみられた。二拠点居住は家族関係を良好に築く場としての機能を果たし、家族で会う機会が少ないほど、家族関係を良好に築け、家族がいるありがたみや個々の存在を考え、物理的に家族が住む距離が遠いものの、家族の心の距離が近くなることが明らかになった。

### 3-3. 地域との関わり

(1)地域との関わり：①地域活動などに参加し、地域と密接しながら生活を送る地域密接型②地域に知り合いやたまに関わりを持ちながら、地域の中で生活を送る地域関与型③地域と全く関わりを持たずに住人と会うと、会釈をする程度の付き合いを送る地域疎遠型の3つに分類することができた(表4)。

表6. 意識的な家族関係

意識的な家族関係(ヒアリング抜粋)	
[1]	親が離れ離れになってから父に対する考え方が変わった。一緒に居るときは腹が立ったり、苛立つ頃が多々あったけど、最近では親が別居してあんまり顔を合わす機会が少なくなったから、それ以降父と会いたくなったり、ありがたみを感じるようになった。/B家
[2]	二つのところで住むことでどこもことたら、安心とか安らぎとか、自尊心の高まりが意欲になったりとか、親からしたら生きがいであったり、親子で絆の再構築に繋がって、二拠点生活が確実に自己実現に向かっている。初めは、親と子が物理的な距離もあるし、心の距離も離れてたと思う。でも今は物理的な距離が母と近くなった。父は物理的な距離は遠いけど、父親が近くにいるぞっていつも言うことで、家族の距離が縮まって、これから生きていく上の生きる力につながるんじゃないかな?社会に出て何かがあってもお父さんお母さんがいるから、弟がいるからなってお互い繋がりがちゅうか、子父母がわかってるようでわかってなかった繋がりが繋がったことを思い起こさせてくれた。/D家
[3]	当然妻と娘の関係が強くなりましたね。私からするとここに来ると単身赴任扱いになるんでね。男性側からするとしょっちゅう帰るとしても生活は変わりますね。だから私と娘の関係が密になりました。いる時間が短いんで。すると娘はお父さんいつ帰ってくるの?って感じて思ってくれてるとか、娘が日本語を使えるようになってきたんで、新しいコミュニケーションができるようになってきました。/F家
[4]	嫁さんとの間で喧嘩はへったな。こっちに来てから。一緒にいないから喧嘩しなくなったし、ほんで反対に父の日や母の日で息子からなにかもらったりするようになったのは、別々に住み始めて多くなったかな?普段離れてるから、個人の存在を心配するようになってるんじゃないかな?知らず知らずの間に。ずっと一緒やったらありがたみがわからんし、離れてるからこそ、ありがたみがわかるんじゃないかな?/K家

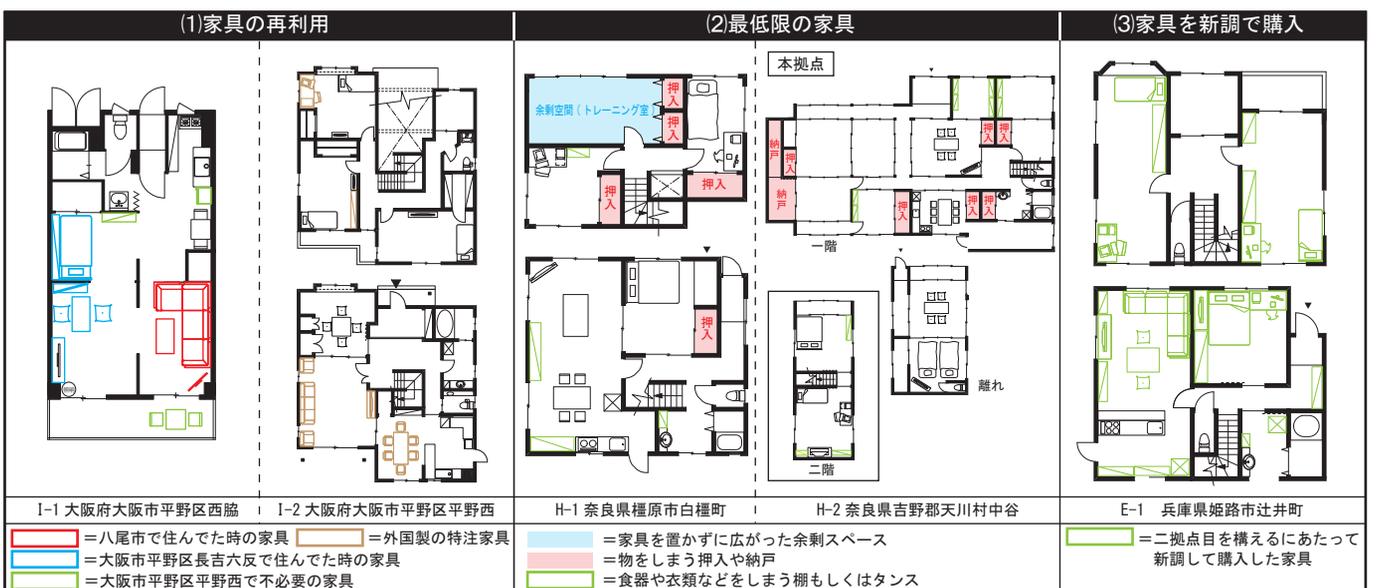


図5. しつらえの変化

地域密接型から地域疎遠型に移動して過ごす場合は、普段の生活から逸脱し、地域活動や地域からの目を気にせず ゆっくり過ごす。[H家]は、本拠点で行う地域活動から逸脱した関わりを二拠点目で行い、公的な場と私的な場として二拠点を使い分けていた。逆に地域疎遠型から地域密接型に移動して生活する事例では、普段できない自然と触れ合う体験を行う。[G家]は農業体験を南房総の田舎で行い、[K家][L家]採れた野菜などのおすそ分け文化を地域密接型で体験し、地域における自分の役割を理解している。

以上から二拠点居住における地域との関わる意義は、①普段の生活から逸脱して二拠点目で地域から離れたゆっくりとした生活ができる②地域との関わり度合いは、その地域の場所性に依存されるわけではなく、むしろその場所で何年過ごしてきたのかに左右される③地域と長い年月共に過ごすことで地域と担い手両者に安心感をもたらす、普段味わえない文化を体験することができることにある。

(2)地域密接型で住む為の留意点：今回のヒアリング調査を行う中で、地域密接型に住む時の留意点を述べていた事例がいくつかみられ、その内容を以下に記す(表7)。まず、地域の人との挨拶や世間話ができることは重要であり、冠婚葬祭など地域のことで困ったことがあれば、自分一人で物事を考えずに地域の人に相談し、地域の考え方や規則に則って行動することが重要である。また、地域の人と信頼関係を生むためには長い年月を費やし、そのなかで自分を認めてもらえるよう地域と関わっていく必要があるために、数年単位でその地域を出る予定がある人に不適合で、今後もその地域の中で居座っていく覚悟がある人が適している。

表7. 地域との関わり

地域との関わり (ヒアリング抜粋)	
[5]	挨拶くらいはやっぱりね。急には無理だからじわじわとね。うちの場合は二拠点生活するときに良かったのは引越して半年間ここにいましたからね。だからその間に嫌でも人間関係を作っていきますから。だからそれをしたことがあってあとが比較的楽だったかも。初めから二拠点で月に1週間とかになると厳しかったのかも。その半年の間に習い事に行ったり、この辺の美味しいお店を探したり、妻がいろいろしてましたから。/F家
[6]	特に意識してやったことはないんだけど、ちゃんと挨拶ができれば大丈夫だと思います。だから顔を合わしても知らない顔をして通りすぎて行くとかは田舎ではやらない方がいいと思います。顔を顔を合わせれば、必ずこんにちはは言って、何年も行っているとこんにちは以外にちょっとした話題も出てきて、おばあちゃん元気？とかお子さんそろそろ小学生？とかそういう会話ができて困ったら助けてくれるし、それからわからないことがありますから、地域社会がもちろぬみたいなものもありますから。/L家
[7]	聞きに行くにしても、これがわからないので教えてもらっていいですかというよりも、なんかあそこ人が亡くなったみたいですよ、なんかいい人だったらいいですね。お葬式どうしようか迷ってるんですけど、どうしたらいいですかねっていったらこうしたらいいんじゃないかな？とか言ってくれるし。だから聞きに行ったらいいか、普通の会話の中で聞く感じだね。自分流にするのが一番ダメ。/L家

#### 4. 二拠点居住の有意性と課題

##### 4-1. 二拠点居住の有意性

二拠点居住の有意性を①二拠点居住を行う担い手が誰なのか②家族が会う頻度がどれくらいなのか、以上の指標から4つのパターンを算出した(図9)。

[恣意型] 二拠点居住の担い手が個人であり、家族が毎日もしくは定期的に会い、二つの拠点を恣意的に行き来を行い、分離的に機能を使い分け、家事分担など家族内で自分の役割が明確であるパターン。

[相互型] 家族が週末や週ごとに会う頻度を要し、二拠点居住を行うことで担い手の機能だけでなく、家事の軽減や私的な場として家族にも影響をもたらす機能が重複するパターン。

[往來型] 二拠点居住の担い手が個人もしくは家族の特定の人であり、担い手は定期的に二つの拠点を移動するが、残りの家族も恣意的に二つの拠点を行き交い、機能を内包しながら家族移動が往來するパターン。

[慈愛型] 子供の教育などをきっかけに二拠点居住を始め、主に小さい子供を持つ家族に見られ、家族全員で二拠点を行き来し、家族が一緒に過ごしながらか子供を慈愛し、二拠点の機能を一致させるパターン。

以上の4つのパターンから機能の使い分けと地域との関わりから明らかになったことを以下に示す。

①二拠点居住を行う担い手が誰なのかによって、各拠点の機能の使い方が変わり、担い手が個人なら恣意的に自分の趣味の場として機能を追加し、担い手が家族全員なら子供のことを考え、機能を一致的に利用する②相互型と往來型は二拠点居住を行う担い手が個人なのかどうか、もしくは家族が会う頻度がどれくらいかで異なる③家族が会う頻度や、担い手自身が二拠点目に行く機会が乏しくなると、今後どのような家族形態もしくはライフスタイルが展開されるのか未定な為に、二拠点目を賃貸契約し、地域疎遠型の地域に住み、地域とあまり関わりを持たない事例がみられた。

以上から二拠点居住の有意性は、各拠点の機能を効率的に使い分けることで、生活の豊かさを向上させることができ、二拠点居住の担い手の変化や地域との関わりから、多種多様なライフスタイルを展開できることにある。

表8. 二拠点居住の課題と対策

		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
費用					その場所を有効活用		捉え方を変える	○	その場所を有効活用		○			○	
労働	家事		家族で家事分担	○	家族で家事分担				○	家族で家事分担			家族で家事分担		
	炊事														
病気の対処												地域と連携		地域と連携	
移動の苦労		○	○	外の空気が吸える	移動時間を有効活用				○	○					
その他										○	○				○

(注)○は各事例の課題で解消できていないものを示す

#### 4-2. 二拠点居住の課題に対する取り組み

14 事例のヒアリング調査を行い、①移動費・維持費・生活費・購入費などの費用面②家事・炊事などの労働の大変さ③一人で住む病気の対処④地域との繋がり⑤移動の苦労など、様々な課題点が浮かび上がってきた。そういった二拠点居住の課題を各事例では解消しながら生活を行っており（表 8）、①費用面では二重生活を解消する工夫がみられ、[D 家][H 家]のように、子供が高校進学と共に上京し、家を離れることを余儀ないが、子供と親と一緒に住むことで、家族バラバラに住む費用以下で済み、親もその住まいを拠点に様々な余暇を楽しむことができ、[F 家]では、飲み代や趣味、旅行などの一般的に費やされるお金の出費先を二拠点に費やし、金銭的な価値以上のものを得ており、何に費やすのかなど物事に対する捉え方を変えることで解消②労働の大変さでは、家族で家事を分担し、親の帰宅時間が遅い時に子供に手伝ってもらい工夫がみられ③病気に対する対処では、地域との密な関わりが必要とされ、[K 家][L 家]のように、地域コミュニティが盛んな場所に住み、何かあった時に地域の人に協力もしくは、助けてもらう④移動の苦労では、必然と移動する時は外へ出るので、体を動かすもしくは、外の空気を吸うことができる[C 家]、移動の合間に今晚の夕食献立を考えたり、何を買い物しようか考えることで、移動時間を有効活用し、無駄な時間を省く[D 家]のような工夫がみられ、どれもが二拠点居住における課題点を機能的に、時間を有効活用しながら解消していた。

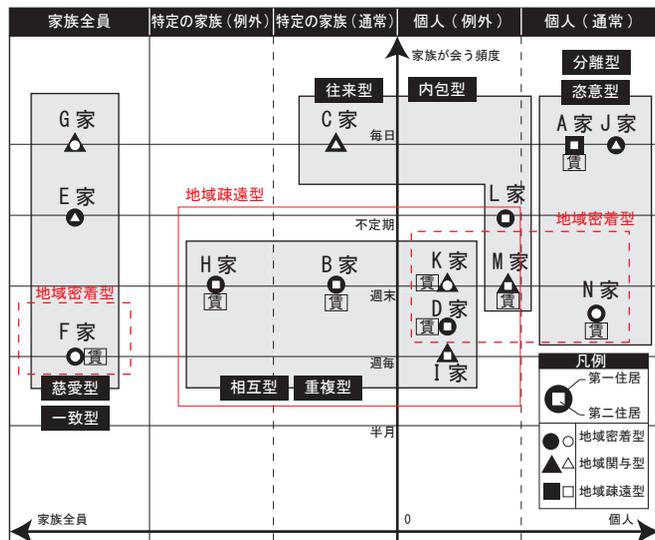


図 9. 二拠点居住のパターン

#### 4-3. 地域貢献への評価

(1)空き家問題：二拠点居住では、解消できると考え、本研究では 4 事例空き家を解消する事例がみられた。しかし、空き家に住む時にかかる初期投資（改修費用）に多額の金額が必要となり、容易にすぐ住むことは難しく、なかなか買い手が見つからないのが現状である。  
(2)地域活性化：担い手が行動を起こし、地域のために自分が何をできるのか考え、Facebook や Twitter など SNS を通して発信[F 家][K 家]、NPO 法人を設営し、都会で暮らす人に田舎のよさをワークショップを通して伝える[G 家]、自分の実家をゲストハウスとして改修予定、改修後は若者が村を訪れるしくみを計画する[J 家]など様々みられた（表 10）。

以上から、地域住民が活用方法に困っている空き家に住むことで、その地域のよさや空き家の解消法の提案を Facebook などの SNS を用いて、外部に発信する機会や地域住民参加型の WS を設け、地域活性化を試み、担い手自身が地域貢献に役立ちたいと考えている。

#### 5. 結論

二拠点居住を通して様々なライフスタイルをみることができ、どれも一つの住まいの中では繰り広げることが出来ず、二つの住まいがあることで展開されるライフスタイルであった。

二拠点居住を行う担い手が誰かによって、二拠点の使い分け方が異なり、ライフステージごとに新しいライフスタイルが誕生した。そして、二拠点居住は良好な家族関係を築く場として使われ、地域と密接に関わることでライフスタイルの豊かさが生まれていた。

そういった豊かなライフスタイルを展開する家族は、費用面や家事の負担、移動の行き来などの世間が抱える課題を上手く解消し、一つの住まいの中で生活する以上の価値を見出していた。

#### 参考文献

- 1, 国土交通省・国土計画局総合計画課 「二地域居住に対する都市住民アンケート調査結果」
- 2, 国土交通省国土計画局総合計画課 ふるさと回帰総合政策研究所 「度地域への人の誘致・移動による市場創出の可能性及び方策に関する調査」
- 3, 総務省統計局「平成 25 年住宅・土地統計調査」
- 4, 国土交通省住宅局住宅総合整備課「空き家対策特別措置法」2015 年 2 月
- 5, 馬場未織著 ダイアモンド社 2014 年出版 「週末は田舎暮らし」
- 6, NPO 法人南房総リパブリック理事長 馬場未織「ふたつの地域に暮らす生き方」
- 7, 都市住宅学 89 号特集 『第二の住まい』による地域づくり」2015 春 p. 8-p. 12
- 8, 平成 27 年 12 月 天川村「天川村創生総合戦略」
- 9, 平成 27 年 12 月 天川村「天川村人ロビジョン」
- 10, 都市の「スミカ」形成 - マルチハビテーション居住からみる住まい再考 - 渡邊江里子 / 日本建築学会大会学術講演梗概集 / 2006
- 11, ネットワーク居住の成立形態と住機能の変化 近江隆 / 日本建築学会計画系論文集 / 1995

表 10. 地域貢献

事例	F	G	J	K	L	N
所在地	奈良県橿原市今井町	千葉県南房総市三芳村	奈良県吉野郡天川村南日裏	奈良県吉野郡黒滝村脇川	群馬県多野郡上野村楢原	
所有形態	賃貸	持ち家	持ち家	賃貸	持ち家	
築年数	400年	-	400年	-	100年	
改修有無	●	●	(○)	●	●	
改修場所	壁、金具補修	デッキを付加	ゲストハウスに改修予定	障子補修	水回り・電気	
手段	Facebook, Twitter	Facebook, WS, ブログ	Facebook、ゲストハウス	Facebook, ブログ		人を招待
内容	中国と日本のよさをSNSを通して伝える	NPO 法人を立ち上げて、WSを通して田舎のよさを伝える	空き家の活用例として先進事例的に活用し、情報を発信する	自分が今日行ったことをSNSに投稿して発信する		インド人を年に数回、自宅に招き地域のよさなどを知ってもらう

(注)○は今後、改修するものを示しており、●は改修済みのものを示す

## 討議

### 討議 1 [ 宮本佳明 教授 ]

確かに自分の周りを見渡してみても、施主をはじめとして、二拠点居住といえそうな人って多いかなどか思いながら聞いてました。ただ、一人の人間のライフスタイルの中で見たときにそういう時期って限られてて、どっかで解消されるよね。ある程度経済面で恵まれてて、体が元気で、コミュニティに恵まれてて、車にも乗れてとか、相当条件が揃わないとどっかで解消される危ういライフスタイルと思って、そういう視点ではみないのかなって。結構いいことばかり並べてあるけど？

#### 回答

一つ事例でお金を全く有しない二拠点居住の事例があったんですけど、その人が介護に時間を取られてしまっていて、なかなか調査にご協力いただけなかったんですけど、実際は山から町に降りてきたときに、自分の実家が空いているなど、そういう家を隣の人に委託して、その家を来客が来たときに使いながら、維持管理を行いながら二拠点生活をして、その家を渡すというような本当にお金がかからない事例であったり、今回はそこまで詳しく言えなかったんですけど、一番最初の 14 事例の中で N 家っていうのが実はほとんどゼロ円で生活を行っているような家ではあるんですけど、やっぱり他の中でも体が弱ってくると二拠点の移動ができないと仰られていたところもあったので、費用面に関しては今後まだまだ調べていくと解消できるのかなと思うんですけど、身体的な自分の衰退となるとやはり、二拠点居住はしんどいのかなって。何かしら対策ができてくるともっとたくさんのライフスタイルが出てくるのかなと思います。

### 討議 1 [ 宮本佳明 教授 ]

年齢で言うとどれくらいの人が多かった？

#### 回答

それは全体でですか？

### 討議 1 [ 宮本佳明 教授 ]

全体で。

#### 回答

やはり子供のことを考える人は 20 代 30 代の人に多くて、老後のことを考えたり、余暇的な考えをする人はやはり 60 代を越える人が多かったです。

### 討議 1 [ 宮本佳明 教授 ]

そういう 20 代 30 代の人と 60 代の人でタイプが全然ちがうと思うんです。

#### 回答

やっぱり上の方になると、賃貸というよりは自分の老後の住まいとしてそこを持ち家として考えていく

人もいれば、20 代 30 代となると生活の幅を利かせて賃貸契約をして、家族の変容があったときにそこを売り払って違う場所に行こうなどの傾向は見られました。

### 討議 1 [ 宮本佳明 教授 ]

なにか負の側面もね、あまりいいことばかり書いてあったから。

### 討議 2 [ 三谷幸司 ]

住宅の持続可能性というテーマが今日の発表の中でいっぱいあって、興味があることなんですけど、そもそも 14 事例をあなたがどのようにピックアップしたのかによってカラーがね、全然ちがうカラーが見えちゃうんですよ。作為的になる可能性があると思うんですよ。私は学生時代に大阪の長屋にお父さんお母さんが住んでいて、子供らは近くに住んでいて、子供が成長しちゃうと親の住んでいる長屋一軒になってとか、とても近場でそういう話も入れていくともっと可能性が出てくると思うし、想定があるでしょ？だからこの 14 事例をどのように選ばれたのか、お聞きしたいです。

#### 回答

半数くらいは自分の身内、もしくは知り合いの中から見つけていったものになるんですけど、残りの半数は去年に天川村でワークショップを開いたときにそこで、天川村の役場の方がもともと空き家をどのように活用したらいいのかであったり、自分が定年後に実家を改修したくて、実家をゲストハウスにしたくて、今回の事例の中でも J 家というもので取り扱ってはいたんですけど、その人がすごく地域貢献に興味がある方で、こういった調査をしたいということで、うちの村にはそういった都会から村に来ている人や、もしくは村から都会に出ていく人がいるということで、紹介して頂いたりしてその 7 事例ほどが含まれているので、見て頂いたらわかるんですけど、奈良県の吉野郡に属している方も多くて、自分が見つけた 7 事例とあとは奈良県で偏った 7 事例だったので、もっと日本全国でみたらいろんな事例があるとは思いますが、そういった偏った事例の中でも、まだ山間部・郊外・都心部というような既往論文とはまた違ったところでは、本研究では言えたかなって思います。

### 討議 2 [ 三谷幸司 ]

可能性が大いにある話だと思うんで、色んなタイプを見ていくとそういうのが成り立つんじゃないかなって思いますので、頑張ってください。

### 討議3 [横山俊佑 教授]

さっき色々な話が出て、やっぱり二拠点居住がこれからもっと広がっていくと思ったんですけど、例えばね、ライフステージごとにねどういう二拠点居住の可能性があり得るのか？若い世代・中くらい・年を取ってきてとかのライフステージごとに二拠点居住の可能性がこの研究から得られたらいいかなって。少し提案的な話を入れてみる。そしてさっき話にも上がっていたけど、課題と提案をもう少し読み込んだものにしてもらおうと非常に奥深いものになると思います。ちょっと二拠点居住の有意性に偏った結論になっているので、もう少しそういった可能性まで含めてやってみてください。

### 回答

わかりました。